

子ども理解を深めるために～教職員の子ども理解を支援する～

【調査研究の目的】

今年度の長野県の調査において、発達障がいの診断を受けている児童・生徒は増加し、小・中学校・高等学校の全てで過去最多になっていることが明らかになった。クラスの中で「気になる子」は「困っている子」であり、児童生徒の困っている背景から支援を検討し、チーム学校で実施していく必要がある。今年度は対象を高校に絞って調査研究をし、生徒の困っている背景から支援を考えるきっかけとなるような校内研修用の動画を作成することとした。

【調査研究の内容】

◆各校の取組を視察・調査

<箕輪進修高等学校>

通級による指導の取組を中心に授業を参観。生徒一人一人の丁寧な実態把握や情報の共有をもとに、教職員がチームで支援を行う学校体制が構築されていた。自立活動の視点で生徒の願いや課題を捉えて目標を設定し、自己理解を深めながら、将来の自立と社会参加に向けて必要となる力を育成していく通級による指導について学ばせていただいた。

<松本筑摩高等学校>

キャリア教育の一環として行われているソーシャルスキルトレーニングを参観。安心して学校に通い、納得して自分の進路に踏み出していけるよう、「挨拶する」「話を聴く」「親しく話せる」などのソーシャルスキルトレーニングを年間計画に位置付けて継続的に実践していた。また、教職員の共通理解のもと、教師がカウンセリングマインドをもって生徒とかかわり、情報の視覚化等による支援が当たり前のこととして実践されていることを学ばせていただいた。

<エクセラン高等学校>

高校生活に対して不安を抱えていた生徒が「この学校ならできるかも」という気持ちで生活できる状況づくりをすることで、安心し意欲的に学ぶ姿につながっている様子を参観。相談体制を充実させ、丁寧な生徒理解と情報共有をすることで、個々に最大限配慮し、生徒たちの「これまでできなかったことにチャレンジしたい!」という気持ちを支える支援が学校全体で実践され、生徒の自信につながっていることを学ばせていただいた。

<塩尻志学館高等学校>

全ての生徒がわかる・できる授業のユニバーサルデザイン化を目指した取組を参観。生徒と教師それぞれの授業中に気になることを調査した上で、生徒が求めている支援や教師側の課題について検討し、情報の視覚化、刺激量の調整等の支援を学校全体で取り組んでいることを学ばせていただいた。

支援を考えるきっかけとなるような動画を作成し、校内研修で活用してもらおう!



気になる生徒の支援や対応について、約5分で視聴できる動画を作成中。研修等でご活用ください。※4月にホームページに掲載予定

◆動画の作成

ちょこっと紹介!

